

ずいそう

## 車は買わない・借りる時代に？

山下 耕治



「駐車場が全戸分なくて、足りないんですよ。もし、駐車場をご希望でなければ当選の確率が高まるかもしれませんね。」2020年夏に家探しを始めて、マンションギャラリーの女性スタッフから聞いた言葉が最初のきっかけだった。

11年間、広島市内の郊外で、子供3人・妻と5人家族で暮らした一軒家だったが、定年が65歳に延長となり、これから15年近くも続く通勤片道1.5時間を何とか短縮したい気持ちと、子供3人がすでに大学進学後、帰ってくる気配が微塵もないことから、もっと街中に引っ越すかな、と考え始め、妻に相談してマンションへの引っ越しを本気で考え始めた。

あらためて自家用車について考えてみると、通勤にも使わず、週末の買い物ぐらいしか乗らないため、年間6千km程度の走行距離で、もったいないなあ、と思い始めた。また、2014年の広島土砂災害で浸水して買い換えた車も5年を超えて、中古車再販も考えるとそろそろ買い替えか、と考えていたのだが、そもそも、車の所有にいくらかかっているのか？と計算をしたところ、ミドルクラスの新車購入費、税金、保険、燃料代、駐車場代、もろもろで、年間平均80万円程度かかることがわかった。少々不便でも、50歳過ぎでの住宅ローンを考えると、もはや一択である。まもなくマンション購入に申し込み、無事当選したのであった。

さて、車を借りるのには、レンタカー、シェアカーなど、便利なサービスが展開されているのはご承知の通り。本格的な遠出であれば、中・大型車でレンタカーが便利だが、通常は小型のシェアカーを使っている。自宅のマンションから半径1km以内に15箇所のステーションがあり、急な用事でも借りられないことは、ほぼ無い。また、あらかじめ使う時間を決めて予約する為、最初のころは返却時間が近くなると、変なプレッシャーがかかってそわそわして落ち着かないこともあった。費用は、一番安いもので15分220円で時間貸しのため、少しでも安くしようと外出から早く帰ってきたり、と、イマイチ楽しむことが出来なかった。ただ、長居しないので、無駄な出費が減ると、目的を持った外出になり、時間を有効に使う意識が強くな

なった面もある。そうこうして半年ほど経過するとすっかり慣れてきて、1年も経つと、経済的にもかなりお得感が認識できて、余裕が出てきた。これまでの25年の実績だと、月平均8,400円なので、一応、目標通り(1万円以内)の予算内である。また、ちょっとした近距離の旅行も鉄道+レンタカーが便利で、ゆったりと移動が出来て、安全上も間違いなく良い。すっかり上級者の域と自負している。

最近、90歳を迎えた父が、ようやく運転免許の自主返納をしてくれた(遅すぎるのだが、ようやく説得に応じてくれた)。

九州の田舎で、車がなければ不便でしかないのだが、致し方ない。いまだに、電話口で「不便だ。不便だ」を連呼して、不満を言ってくる。私は、建設機械メーカーに務めて30年目を迎えたが、最近5、6年は、先行技術開発に携わり、建設機械の遠隔・自動運転などを開発してきた。よって、公道を走る自動車の自動運転は難易度が高いことは百も承知ではあるが、助かる人がたくさんいるのになあ、と思うこの頃である。高齢者向け・地方の過疎地での遠隔・自動運転サービスは、新しいモビリティサービスの1つであり、ぜひ、実現して頂きたい。一方、このようなサービスがあると、もはや、自分の車を買う必要がなくなる可能性もある。

おそらく、我々の世代の方は、移手段だけでなく、「車で外出→思い出づくり」を実現するためにも車を所有するのであり、なかなか車を手放すという意識は少ないのかもしれない。高専3年生の夏休みには車の免許をとって、学ランで車を運転していた私も、基本的には同じで、当時、大学受験しないのを良いことに、阿蘇山、天草の海水浴場、長崎オランダ村(懐かしい…)、海の中道、などなど、友達や恋人(現在の妻)とドライブしたことを今でも思い出す。なので、いまだに新車が並んでいる販売店の前を通ると、正直に、「ああ、カッコいいな。欲しいな。」と思ってしまう。さて、いつかまた車を買う日がくるのだろうか…。

—やました こうじ コベルコ建機(株) 技術開発本部 本部長、  
広島大学 客員教授—